

練馬区立光が丘夏の雲小学校 卒業式式辞

日に日に春の息吹が感じられ校庭の木々も新芽が伸び桜のつぼみも膨らみ始めました。本日ここに、令和元年度、第十回練馬区立光が丘夏の雲小学校 卒業式を挙行するにあたり現在、世界を巻き込んでいる不安を払拭するかのよう未来ある皆さん一人一人に卒業証書を手渡すことができました。

引き締まった表情の中に小学校6年間の生活を立派にやり遂げたという大きな満足感と新しい世界へ出発するのだという力強い決意を感じました。

三月は旅立ちの春、別れの春など変化の多い月です。社会も日々大きな変化が訪れています。

自分の生活に変化が起こる時、どのように感じるでしょうか。精神的な重圧やストレスを感じる人も多いと思います。

様々な「変化」が人間にどのような影響を与えるかを

調べている研究チームがアメリカにあります。その研究によると「変化はいつも不都合に感じる」とのこと。

つまり良い変化でも悪い変化でも常に変化に対しては抵抗を感じるのが人間の習性なのだそうです。住む場所が変わる。勉強するところが変わる。それがどのように良いことだと分かっても多少の不安は湧いてきます。先が見えないなら、なおさらのこと。変化には不安が付きものです。

しかし、不安や不都合を感じながらも、変化を恐れず飛び込んでいけというのが、先人たちの教えです。今からおよそ三千年前に成立されたと言われる東洋最古の書物「易経」^{えいききょう}にこんな言葉があります。「君子豹変す」。『ヒョウの毛が季節によって抜け変わるように、人の上に立つ者は、時代の変化に合わせて、過ちが見つかれば的確に変わるものだ。』との意味です。

昔だけではありません。昨今でも時代の変化に柔軟に

対応できる人が欲しい。変化を楽しめる人が欲しいと社会では求められています。変化を恐れない。それは数千年の昔から現在に至るまで求められてきた資質です。裏を返せば人間はそれほど変化に対応することが難しいと言うことです。変化を受け止め、自らも変わっていく。不変の信念を持ちつつも、変化を楽しむ心意気をもちたいものです。

つい先日、教え子のご家族に会いました。そのご家族は息子さんが高校進学でめでたくも二つの高校に合格しましたがどちらにするか最後まで悩み続けていました。

人生にはどちらを選んでも正解になる問いが山積しています。そのような時には、選び方にコツがあります。それは、「自分で考える。自分で決めるそしてその結果を愛する」ことです。特に大事なことは三つ目の「結果を愛する」ことです。自ら考え、決めた結果を愛せるように生きていく、と言い換えてもいいかもしれません。

これから皆さんに訪れる中学校への入学そして中学校生活、四月に起こる大きな変化に戸惑う方もいるかもしれません。

カナダの作家モンゴメリが書いた「赤毛のアン」という小説の中に勇気づけられる一節があります。読んでみます。

「曲がり角を曲がった先に、何があるかは分からない。でも、それはきつと、一番良いものに違いないと思うの」と書いてありました。

不安を乗り越えて踏み出すその先に、新しい自分が見えてくるはずです。旅立ちの春、未来を見据える皆さんの顔には、こわばった顔ではなく、凛々しくも、勇ましく笑顔が似合います。皆さんもそう思いませんか？

最後に、私の好きなドラマ「坂の上の雲」から一言「変化は君に、脱皮を要求しているのだ。恐れるな。その登り坂の上は、きつと晴れている。進め！」

変化は常に不安を伴うもの、選んだ結果の優劣は誰にも分かりません。選んだ結果を愛せるように生きる。私たちに求められているのは結果を愛する覚悟なのです。新たな旅立ちを控えているこの光が丘夏の雲小学校を巣立っていく皆さん。

変化こそ、殻を破るの　いいタイミングです

不安の殻を　突き破ってください

最後になりましたが、本日もご列席を賜りました保護者の皆様。六年間、さぞかしご苦労もあつたことと思いますが、今日のこの晴れ姿をごらんになり、その苦労も喜びに変わったことと思います。これからも温かく、そして時には厳しく、子どもたちの成長を見守っていただきますよう、お願い申し上げます。

六年間という長きにわたり、本校の教育に温かいご理解ご支援をお寄せいただいた皆様に、全職員とともに心

から感謝を申し上げ、これからも子どもたちを、「地域の宝」として末永く見守っていただけますようお願いを申し上げます、式辞といたします。

令和二年三月二十五日

練馬区立光が丘夏の雲小学校

校長 牧野光洋